

夏が来る前に

中部中・3 蒔田 彩羽

「今年の夏は猛暑となるでしょう。」

朝のニュースに、もうすぐ夏だということ知らされる。

「まだ六月なのに。」

私は暑い季節が苦手だ。カレンダーを見ると二十四日。それには丸が描かれている。今日は五年前に亡くなったおじいちゃんの命日だ。私の記憶に残っているおじいちゃんというのは、

「彩羽の子どもを見るまで生きる。長生きする。」

が口癖だった。私やお母さんは、

「また言ってる、本当に長生きしそうだな。」

と言った場が和むのがいつものパターンだった。おじいちゃんは動物園にも連れて行ってくれた。ライオンを見ながらチーターと言ったり、サルを見て自分に似ているなどと言ったりして笑わせてくれた。

おじいちゃんはおばあちゃんが大好きだった。おばあちゃんが入院している時に、家で一人で行っているのが嫌で、おばあちゃんが退院するまでほぼ毎日お見舞いに行っていた。家ではたくさんけんかをしてきたが、ふとした行動からおばあちゃんが好きだということが伝わってきた。とても微笑ましかった。

私がお母さんやお父さんと喧嘩したときは、おじいちゃんの部屋に行って絵と一緒に描いたり、トランプをしたりして遊んでもらっていた。その頃の私のマイブームは、学校から帰っておばあちゃんにもらったアイスを食べながら、おじいちゃんのひざの上でテレビを見ることだった。その時間がすごく好きで、毎日毎日おじいちゃんの部屋に行っただけでいい気分だった。

一番印象に残っているのは、弟の誕生日のときだ。

その日、学校から帰ったらテーブルには、ケーキが置いてあり、弟はおじいちゃんからもらったであろうプレゼントを大事そうに持っていた。すると、お母さんが私の方に来て、

「おじいちゃんと呼んでよ。」

と言った。私は何だろうと思いついてみると、

「はい、これ。きつと驚くぞー。」

と言った私に大きな袋をくれた。中を見ると私が欲しかったものが入っていた。しかもたくさん。おじいちゃん是我的誕生日を今日だと間違えたのかと疑ってしまうほどだった。お母さんの誕生日もお父さんの誕生日にも私へのプレゼントがあった。どうやら私の誕生日は一年に四回ほど来ていたらしい。わたしは嬉しくてこの先の出来事を忘れることはない。

小学三年生の冬、おじいちゃんが突然倒れた。家で好物のアイスを食べている時、急に電話が鳴った。お母さんが電話に出て、その時のお母さんの声はすごく焦っていた。

「彩羽、おじいちゃんが倒れて救急車に運ばれたって。すぐ病院行くよ。」

とお母さんが言った。私は頭が真っ白になった。あのおじいちゃんが、あんなに元気だったおじいちゃんが倒れるなんて想像もしていなかった。

病院に着いておじいちゃんの病室に行くと、おじいちゃんは酸素マスクをして、点滴をしていてとても苦しそうだった。看護師の方からは、脳梗塞だときいた。

次の日からできるだけ病院に通った。

けれど、私は恥ずかしくて、おじいちゃん話をするのがあまりできなかった。四か月経っておじいちゃんの病気が悪化してまともに会話をすることが難しくなった。そして六月二十四日の午後、病院の方から、

「容体が危ないです。」

と電話が来た。私はすぐ車に乗って病院に向かった。病室に入るとおじいちゃんは何故か酸素マスクと点滴を外されていた。周りの人は泣いていて私は「おじいちゃんが亡くなった。」と理解した。私は今もずっと後悔している。話ができる時にたくさん話をしていればよかった。何かしてあげればよかった。たくさんたくさん後悔した。

そして三年後、おばあちゃんが入院してしまった。わたしは「絶対にたくさん話さず、後悔しない。」と心の中で思った。コロナ禍の影響で会える日や人数などは制限されたけれど、会える日は部活のことや勉強や今日あった面白い話などできる限り話をした。おばあちゃんは話すことができないくらいに体の状態は悪化していたけれど、うなずいてくれていている感じがして、心がとても温かくなったのを覚えている。

二か月後おばあちゃんが亡くなった。

六月十二日のとても晴れた日だった。

私は、おばあちゃんを笑顔で天国に見送ることはできなかったが後悔は全くしていなかった。おばあちゃんに自分のことをたくさん話せて、何度も手を握ることができたから後悔というよりいい思い出になった。

後でお母さんにおばあちゃんやおじいちゃんの話聞いてみると、昔おじいちゃんやおばあちゃんは「部活も勉強も頑張っしてほしいけど、元気が一番だな。」と言っていたらしい。私はそれを聞いて部活も勉強も頑張ろうと思った。今、引退したので部活はないが、受験生だから毎日元気に学校へ行くことを心掛けつつ、勉強を頑張っている。暑くなってきた今、何もかも投げ出したくなるが、おじいちゃんやおばあちゃんとの会話を思い出して苦手なこの暑い季節を乗り越えようと思う。